



2016年度 環境活動レポート

(対象期間：2016年10月～2017年9月)



発行日：2017年11月28日
改定日：2017年12月20日

I. ごあいさつ

クサカ建設株式会社は、昭和42年の設立以来、お客様の幅広いニーズにお答えする総合建設会社として、数多くの実績を積み重ね、地域社会の発展に全力を傾注してまいりました。全従業員が地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と環境が共存する社会を目指して取り組んでまいります。

環境方針

当社は、当社の関わる建築工事において、地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の一層の低減を図るべく、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を推進します。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。（電気、ガソリン、灯油、都市ガス、軽油）
3. 廃棄物の削減を推進します。
4. 建設現場等での建設リサイクル、再生資源の利用を推進します。
5. 水道使用量の削減を推進します。
6. グリーン購入を推進します。
7. 環境に配慮した施工技術の開発と顧客への提案を推進します。
8. 地域の環境美化活動を推進します。
9. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2015年6月15日

改定日：2017年10月1日

取締役社長

谷口邦明

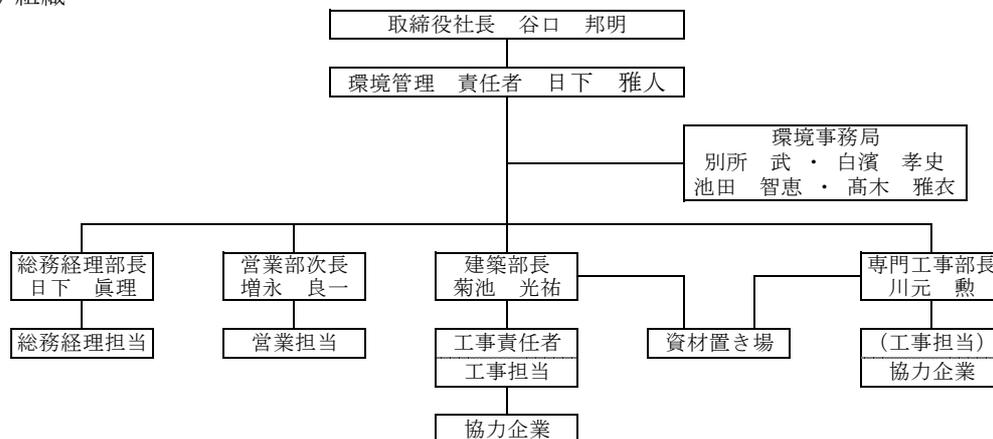
II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
クサカ建設株式会社
取締役社長 谷口 邦明
- (2) 所在地
本 社 〒660-0076 兵庫県尼崎市大島3丁目30番5号
資材置き場 〒660-0076 兵庫県尼崎市大島3丁目27
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
環境管理責任者 専務取締役 日下 雅人 TEL:06-6416-0181
担当者 総務部課長 池田 智恵 TEL:06-6417-8381
Email: kenchiku@kusaka-kk.co.jp
- (4) 事業内容
土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工事業
石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業
鉄筋工事業、舗装工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業
防水工事業、内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業、解体工事業
許可番号 兵庫県知事 許可(特-29) 第202217号 許可年月日 平成29年5月30日
許 可 期 限 平成34年5月29日

- (5) 事業規模
設立 昭和42年4月
資本金 6,000万円
年間工事完成高 1,940百万円 (2016年度)
事業所の規模

	本社	資材置き場	合計
従 業 員	22名	無人	22名
延 べ 床 面 積	288㎡	345.96㎡	633.96㎡

- (6) 組織



- (7) 事業年度 10月～翌年9月

III. 認証・登録の対象範囲

登録組織名： クサカ建設株式会社
対象事業所： 本社、資材置き場
活動： 土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工事業
石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業
鉄筋工事業、舗装工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業
防水工事業、内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業、解体工事業

IV. 主な環境負荷の実績

わが社がエコアクション21の認証登録後の初年度となる2016年度の二酸化炭素排出量は56,414.9kg、前年比0.9%増加となったが、エコアクションの基準年としている2013年度から27.6%の削減を達成した事になる。

- ・本社事務所の二酸化炭素排出量は26,044.2kgと全体の46%、建設現場における二酸化炭素排出量は0.6kgと54%を占めている。

- ・二酸化炭素排出量における全体の54.5%を占めているのが電力の使用である。全社使用量は58,889.0kWhで前年対比23.9%増加した。これは、工事量の増加により工事現場での消費が増えた為で、事務所では前年比4.8%減少している。

- ・次にガソリンの使用における二酸化炭素排出量が大きく45.3%を占める。ガソリンの使用量は11,012L、前年比15.8%の削減に成功した。これは、基本車の使用は禁止し公共交通機関を利用するよう徹底した取組の結果である。

- ・都市ガスの使用量は前年比減少、灯油、軽油は今年度使用がなかった。これらは建設現場の状況に左右される。

- ・2016年度の廃棄物排出量は3,297.4tで前年比466.8%増加。一般廃棄物は6.2%減少しているが、産業廃棄物が467.9%増加した。これは、主として解体工事の受注による。

- ・総排水量は建設現場の状況により大きく異なる。1,958m³は前年比86.1%の増加となり基準年度の383m³の5.1倍という数字である。これは、大型工事の受注による。

		単位	2013年度 (基準年度)	2014年度	2015年度	2016年度	前年比
完工高		百万円	2,259	1,847	1,495	1,940	—
二酸化炭素 排出量	全社	kg-CO ₂	77,957.2	61,724.3	55,913.1	56,414.9	+0.9%
	事務所	kg-CO ₂	33,476.7	30,544.6	25,843.9	26,044.2	+0.8%
	建設現場	kg-CO ₂	44,480.5	31,179.7	30,069.1	30,370.6	+1.0%
電力		kWh	80,561.0	52,506.0	47,531.0	58,889.0	+23.9%
		kg-CO ₂	42,052.8	27,408.1	24,811.2	30,740.1	
ガソリン		L	14,210.1	12,708.5	13,070.7	11,012.0	△15.8%
		kg-CO ₂	32,991.0	29,504.8	30,345.7	25,566.1	
灯油		L	144.0	236.3	94.0	0.0	—
		kg-CO ₂	358.8	588.9	234.2	0.0	
都市ガス		Nm ³	63.0	316.0	130.0	53.0	△59.2%
		kg-CO ₂	129.2	648.1	266.6	108.7	
軽油		L	924.1	1,362.0	97.3	0.0	—
		kg-CO ₂	2,425.2	3,574.4	255.3	0.0	
廃棄物排出量		t	2,477.6	1,305.8	581.8	3,297.4	+466.8%
一般廃棄物		t	実績不明	1.3	1.4	1.3	△6.2%
産業廃棄物		t	2,477.6	1,304.5	580.4	3,296.1	+467.9%
総排水量		m ³	383.0	1,046.0	1,052.0	1,958.0	+86.1%

注) 化学物質は使用していない。

V. 環境目標及びその実績

(1) 中期目標

項目		年度				
		2013年度 (基準年度)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	77,957.2	75,618.4	74,838.9	74,059.3	73,279.7
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
【事務所】 排出量削減	kg-CO ₂	33,476.7	32,472.4	32,137.6	31,802.8	31,468.1
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
1) 電力使用量 使用量削減	kWh	36,998.0	35,888.1	35,518.1	35,148.1	34,778.1
	kg-CO ₂	19,313.0	18,733.6	18,540.4	18,347.3	18,154.2
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
	2) ガソリン 使用量削減	L	6,045.0	5,863.7	5,803.2	5,742.8
	kg-CO ₂	14,034.5	13,613.5	13,473.1	13,332.8	13,192.4
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
3) 都市ガス 使用量削減	Nm ³	63.0	61.1	60.5	59.9	59.2
	kg-CO ₂	129.2	125.3	124.0	122.7	121.5
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
	【建設現場】 排出量削減	kg-CO ₂	44,480.5	43,146.1	42,701.3	42,256.5
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
	4) 電力使用量 使用量削減	kWh	43,563.0	42,256.1	41,820.5	41,384.9
	kg-CO ₂	22,739.9	22,057.7	21,830.3	21,602.9	21,375.5
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
5) ガソリン 使用量削減	L	8,165.1	7,920.2	7,838.5	7,756.9	7,675.2
	kg-CO ₂	18,956.6	18,387.9	18,198.3	18,008.8	17,819.2
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
	6) 灯油 使用量削減	L	144.0	実態把握及び省エネ励行		
	kg-CO ₂	358.8				
	対基準					
7) 都市ガス 使用量削減	Nm ³	0.0	実態把握及び省エネ励行			
	kg-CO ₂	0.0				
	対基準					
	8) 軽油 使用量削減	L	924.1	実態把握及び省エネ励行		
	kg-CO ₂	2,425.2				
	対基準					
II. 廃棄物の削減						
1) 一般廃棄物 削減	kg	実績不明	1,418.1	1,403.8	1,389.5	1,375.1
	対基準	1,432.4	△1%	△2%	△3%	△4%
2) 産業廃棄物の適正管理						
① 産業廃棄物 削減	t	2,477.6	2,403.3	2,378.5	2,353.7	2,328.9
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
② 建設リサイクルの推進 向上	%	96.92	98.08	98.18	98.28	98.37
	対基準		+1.2%	+1.3%	+1.4%	+1.5%
III. 再生資源の利用促進		t	実績不明	工事資材の再生材利用を協力業者へ依頼		
IV. 水使用量 削減	m ³	383.0	371.5	367.7	363.9	360.0
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
【事務所】 削減	m ³	162.0	157.1	155.5	153.9	152.3
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
【建設現場】 削減	m ³	221.0	214.4	212.2	210.0	207.7
	対基準		△3%	△4%	△5%	△6%
V. グリーン購入の推進	品目	実績不明	304.0	307.0	310.0	313.0
	対基準	301.0	+1%	+2%	+3%	+4%
VI. 環境配慮工法の 開発と提案		件	実績不明	積極的に提案を行う		
		対基準				

注) 電力の二酸化炭素排出係数は、平成25年度関西電力公表の0.522kg-CO₂/kWh を使用。

注) 化学物質は使用していない。

注) 一般廃棄物及びグリーン購入は2013年度実績が不明なため、2015年度実績を基準値として目標設定。

(2) 2016年度の実績

項目	年度	2016年度の実績 (2016年10月～2017年9月)				
		2013年度 基準値	目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	77,957.2	75,618.4 △3%	56,414.9 △25%	134%	○
【事務所】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	33,476.7	32,472.4 △3%	26,044.2 △20%	125%	○
1) 電力使用量 使用量削減	kWh kg-CO ₂ 対基準	36,998.0 19,313.0	35,888.1 18,733.6 △3%	25,692.0 13,411.2 △28%	140%	○
2) ガソリン 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	6,045.0 14,034.5	5,863.7 13,613.5 △3%	5,395.4 12,526.4 △8%	109%	○
3) 都市ガス 使用量削減	Nm ³ kg-CO ₂ 対基準	63.0 129.2	61.1 125.3 △3%	52.0 106.6 △15%	118%	○
【建設現場】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	44,480.5	43,146.1 △3%	30,370.6 △29%	142%	○
4) 電力使用量 使用量削減	kWh kg-CO ₂ 対基準	43,563.0 22,739.9	42,256.1 22,057.7 △3%	33,197.0 17,328.8 △21%	127%	○
5) ガソリン 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	8,165.1 18,956.6	7,920.2 18,387.9 △3%	5,616.6 13,039.7 △29%	141%	○
6) 灯油 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	144.0 358.8	実態把握 省エネ励行	0.0 0.0		○
7) 都市ガス 使用量削減	Nm ³ kg-CO ₂ 対基準	0.0 0.0	実態把握 省エネ励行	1.0 2.1		○
8) 軽油 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	924.1 2,425.2	実態把握 省エネ励行	0.0 0.0		○
II. 廃棄物の削減						
1) 一般廃棄物 削減	kg 対基準	実績不明 1,432.4	1,418.1 △1%	1,343.4 △5%	105.6%	○
2) 産業廃棄物の適正管理						
① 産業廃棄物 削減	t 対基準	2,477.6	2,403.3 △3%	3,296.1 +37%	73%	×
② 建設リサイクルの推進 向上	% 対基準	96.92	98.08 +1.2%	98.85 +0.8%	101%	○
III. 再生資源の利用促進	t 対基準	実績不明	利用を協力 業者へ依頼	416.3		○
IV. 水使用量 削減	m ³ 対基準	383.0	371.5 △3%	1,958.0 +427%	19%	×
【事務所】 排出量削減	m ³ 対基準	162.0	157.1 △3%	134.0 △15%	117%	○
【建設現場】 排出量削減	m ³ 対基準	221.0	214.4 △3%	1,824.0 +751%	12%	×
V. グリーン購入の推進	品目 対基準	実績不明 301.0	304.0 +1%	378.0	124%	○
VI. 環境配慮工法の 開発と提案	件 対基準	実績不明	積極的に 提案を行う	0.0		該当事案なし

注) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度＝目標÷実績×100%、増加を目指す場合は、達成度＝実績÷目標×100%

注) 評価欄にて、○：達成、△：やや未達成、×：未達成

注) 化学物質は使用していない。

注) 建設リサイクルの推進向上 リサイクル率＝再資源化量 (3,258.3 t) / 産廃発生量 (3,296.1 t)

注) グリーン品目を含めた全体数は約800である。

VI. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減		<u>(目標達成)</u>
(下記の通り)		(下記の通り)
【事務所】		
電力使用量の削減		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・空調温度の適正化	○	適正に行われていた。
・不要照明の消灯	○	各自意識して消灯に努めた。
・設備の空運転禁止	◎	不要設備の空運転はみられなかった。
・2階照明プラススイッチ取付	×	実施できなかった。次年度実施予定。
・空調機の順次取替	×	実施できなかった。室外機4台及び室内機5台は順次取替の必要あり。
ガソリン使用量の削減		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・不要なアイドリングストップ	○	常に意識できるよう社有車には『アイドリングストップ・急加速・急停車をしない』等のステッカーを貼る。
・急加速・急停車の抑制	○	
・空気圧、オイル等の点検	○	点検基準がないため、社有車は5,000kmを目安に空気圧及びオイル交換を実施する。
・公共交通機関の利用	◎	可能な限り公共交通機関を利用できていた。
・走行距離の管理	○	走行距離を管理し燃費を算出する事ができた。次年度も管理を継続しデータを蓄積、参考にして何ができるかを検討する。
都市ガス		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・使用湯量の節減	◎	湯温を調整し、時間外は元栓を閉める等徹底して行われていた。
【建設現場】		
電力使用量の削減		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・不要照明の消灯	○	不要な電力の使用はみられなかった。
・設備の空運転禁止	○	不要な設備の空運転はみられなかった。
・型枠施工時スラブ明取りパネル使用	×	取り入れていた現場はみられなかった。取り入れるよう指導を行う。
・仮設足場組立時、明取りシート張部分的使用	×	
ガソリン使用量の削減		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・不要なアイドリングストップ	○	常に意識できるよう社有車には『アイドリングストップ・急加速・急停車をしない』等のステッカーを貼る。
・急加速・急停車の抑制	○	
・空気圧、オイル等の点検	○	点検基準がないため、社有車は5,000kmを目安に空気圧及びオイル交換を実施する。
・公共交通機関の利用	◎	可能な限り公共交通機関を利用できていた。
・走行距離の管理	○	走行距離を管理し燃費を算出する事ができた。次年度も管理を継続しデータを蓄積、参考にして何ができるかを検討する。

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
灯油使用量の削減		<u>(実態把握・左記取組を継続する)</u>
・室内温度の適正化	—	灯油の使用はみられなかった。
・部屋解放の禁止	—	
・不在時点火の抑制	—	
都市ガス		<u>(実態把握・左記取組を継続する)</u>
・使用湯量の節減	○	現場での使用は9月の1.0Nm ³ のみであった。
軽油使用量の削減		<u>(実態把握・左記取組を継続する)</u>
・発電機の使用時間を短縮	—	軽油の使用はみられなかった。
・電気引込みが可能な場所での発電機の使用禁止	—	
一般廃棄物の削減		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・分別によるリサイクルの推進	○	適正に行われていたが、各自のごみは持ち帰るよう貼り紙をする等周知徹底する。
・ミスコピーの防止	○	適正に行われていた。
・裏紙の使用	○	裏紙でも問題ない書類は裏紙を使用するよう各自で意識して行われていた。
・ペーパーレス化推進	△	どのような資料がペーパーレス化できるか検討。
産業廃棄物の削減		<u>(目標未達成・左記取組を継続する)</u>
・分別による最終処分量の削減	○	稼働現場数や工事内容により変動がみられるため、今年度の数値によっては目標値の変更を検討していたが、目標値は変更せず、解体工事及び地中障害で発生した産業廃棄物は解体工事及び地中障害で発生した産業廃棄物は分けて集計し推移を見ていく事とする。各自のごみは持ち帰るよう貼り紙をして周知徹底する。
・仮設資材の再利用の推進	○	次年度も取組を実施する。
建設リサイクル率の向上		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・分別による最終処分量の削減	○	稼働現場数や工事内容により変動がみられるため、今年度の数値によっては目標値の変更を検討していたが、目標値は変更せず、解体工事及び地中障害で発生した産業廃棄物は分けて管理を行い、推移を見ていく事とする。
・仮設資材の再利用の推進	○	次年度も取組を実施する。
再生資源の利用		<u>(促進に努めた。今後も継続する)</u>
・工事資材の再生材利用を協力業者へ依頼	○	今年度は再生コンを利用した現場があった。他の現場でも利用が増えるよう次年度も促進に努力する。
水使用量の削減		<u>(目標未達成)</u>
【事務所】		<u>(目標達成・左記取組を継続する)</u>
・節水の周知徹底	◎	徹底して行われていた。
・垂れ流し禁止	◎	徹底して行われていた。
【建設現場】		<u>(目標未達成・左記取組を継続する)</u>
・節水の周知徹底	◎	稼働現場数や工事内容により変動がみられるため、今年度の数値によっては目標値の変更を検討していたが、目標値は変更せず、解体工事で発生した水使用量は分けて管理を行い、推移を見ていく事とする。
・垂れ流し禁止	○	
・作業員の靴の汚れはトロ箱に溜めた水で落とすよう周知徹底	○	

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
グリーン購入の推進		(目標達成・左記取組を継続する)
・手順書に基づき環境ラベル表示製品を優先的に購入	○	手順書に基づき取組が実施できた。
・5,000万円以上の工事に関わる備品等は、可能な限り本社で購入・調達	○	
・建築資材は『エコマークとグリーン購入法特定調達品目』を参考に購入・調達。建設現場ごとで推進状況を把握する。	○	今年度はアスファルト系セメント質目地板『ケンタイト』を購入利用した現場があった。他の現場でも利用が増えるよう次年度も推進に努める。
環境に配慮した工法の開発と提案		(該当事案無し・左記取組を継続する)
・分野別に環境に配慮した工法やノウハウなどを調査し、受注案件への適用検討、施主への提案を推進する。提案を行った場合は打合せ議事録や写真にて記録を残す。	×	施主、設計者の間に位置する会社としてはなかなか実現は難しい。また、各現場に対して趣旨の徹底もできていなかった。

注) 化学物質は使用していない。

Ⅶ. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	収集運搬・処分業者との適正な契約、保管基準の遵守、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
大気汚染防止法	石綿使用の有無の事前調査、調査結果の発注者への説明と現場 掲示、特定粉じん排出等作業の実施の届出、作業基準の遵守	遵守
騒音規制法（各市町村公害防止条例）	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法（各市町村公害防止条例）	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
低騒音・低振動型建設機械の規定	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
消防法	消防設備の点検（消火器）	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な 処理、該当機器設置有無の確認、発注者への書面による説明	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

Ⅷ. 代表者による全体の評価と見直し

エコアクション21の宣言をして2年強が経過し、環境活動の重要性の認識という面では浸透してきたのではないかと。今後は社員一人一人の積極的な活動につながる様にしてほしい。今回新たに取組む事とした現場、事務所其々で「自分のごみを持ち帰る」という様な活動で意識がさらに高まることを期待します。

現場毎の水の消費量や社有車のガソリン消費状況などデータの収集ができました。これを継続しつつ、どの様に活用するか検討していくことが重要です。

今後は、社内だけではなく、徐々に協力業者と足並みをそろえて取り組むことができる様にしたい。

2017年10月5日
取締役社長 谷口 邦明

IX. 環境活動の紹介



<エコカー導入>



<エコドライブ>



<事務所全照明LED>



<環境教育訓練>



通報訓練



消火訓練

<防災訓練>



<清掃活動>



<節電・節水>